

株式会社トプコン
2025年3月期第3四半期説明会

代表取締役社長 CEO
江藤 隆志

2025年1月30日



イベント概要

[企業名]	株式会社トプコン	
[イベント種類]	決算説明会	
[イベント名]	2025年3月期第3四半期 決算説明会	
[決算期]	2025年3月期	
[日程]	2025年1月30日	
[時間]	15:30 – 16:20 (合計：50分、プレゼンテーション：20分、質疑応答：30分)	
[開催方式]	オンライン開催（ライブ配信）	
[登壇者]	3名	
	代表取締役社長 CEO	江藤 隆志
	取締役 専務執行役員 財務本部長	秋山 治彦
	執行役員 経営推進本部 副長	平山 貴昭

2025年3月期第3四半期説明会 決算のポイント・見通し



連結

- FY24通期は、ポジショニング事業の想定以上の低迷で、業績見通しを下方修正
- 成長シナリオと構造改革推進により、中長期的な利益成長には確固たる自信を維持

ポジショニング事業

- 米新政権の政策不透明感や市況低迷に伴う投資抑制の影響が想定以上
- 景気循環の影響を受けつつも持続成長、構造改革で収益力向上と安定化を図る

アイケア事業

- FY24通期見通しは、期初計画から変更なく、過去最高更新を見込む
- 好調なスクリーニングビジネスを基に、シェアードケアへの展開で売上成長を加速
- 構造改革により事業効率化と収益性向上を推進

本日お伝えしたい、決算のポイントと見通し

連結

2024年度の通期は、ポジショニング事業の低迷が想定以上、業績見通しを下方修正

成長シナリオと構造改革推進により、ポジショニング事業とアイケア事業の両事業ともに、中長期的な利益成長には確固たる自信を維持

ポジショニング事業

米新政権の政策不透明感や市況低迷に伴う投資抑制の影響が想定以上
景気循環の影響を受けつつも持続成長させ、構造改革で収益力向上と安定化を図る

アイケア事業

2024年度通期見通しは、期初計画から変更せず、売上・営業利益ともに過去最高更新を見込む

好調なスクリーニングビジネスを基に、シェアードケアへの展開で売上成長を加速

構造改革により事業効率化と収益性向上を推進

2025年3月期第3四半期説明会 決算ハイライト



● FY24Q3累計実績

連結

売上高 **1,535**億円
前年度比 ▲2%

営業利益 **8**億円
前年度比 ▲88%

ポジショニング事業

前年同期比

売上高 ↓

営業利益 ↓

需要低迷継続で減収幅拡大、**構造改革により固定費削減も減益**

アイケア事業

前年同期比

売上高 ↑

営業利益 ↓

売上堅調も、成長投資にかかる費用増で一時的に減益

● FY24通期見通し

連結 | 新公表値

売上高 **2,110**億円
前年度比 ▲3%

営業利益 **70**億円
前年度比 ▲38%

ポジショニング事業

前年度比

売上高 ↓

営業利益 ↓

厳しい外部環境が継続、構造改革を加速

アイケア事業

前年度比

売上高 ↑

営業利益 ↑

費用増を吸収し、売上高・営業利益ともに過去最高を見込む

決算ハイライト

・2024年度第3四半期累計実績

連結：減収、減益

ポジショニング事業：需要低迷継続で減収幅拡大、構造改革により固定費削減も減益

アイケア事業：売上堅調も、成長投資にかかる費用増で一時的に減益

・2024年度通期見通し

連結：前回公表値を修正し、売上高2,110億円、営業利益70億円に変更

ポジショニング事業：厳しい外部環境が継続し、構造改革を加速

アイケア事業：成長投資のための費用増を吸収し、過去最高の売上高、過去最高の営業利益を見込む

01 FY24 第3四半期決算報告

- 連結決算
- 事業別の状況 | ポジショニング事業
- 事業別の状況 | アイケア事業

02 FY24 通期見通し

- 連結見通し
- 事業別の見通し | ポジショニング事業
- 事業別の見通し | アイケア事業

03 各事業の進捗

- ポジショニング事業 | シクリカルな事業特性
- ポジショニング事業 | 新製品リリース
- アイケア事業 | 成長フェーズの更なる加速へ
- アイケア事業 | スクリーニングからシェアードケアへの展開加速

04 参考資料

- 業績推移
- 地域別売上高
- 設備投資・減価償却費・研究開発費 / 為替感応度

FY24 第3四半期決算報告

01

- 連結決算
- 事業別の状況 | ポジショニング事業
- 事業別の状況 | アイケア事業

01 | FY24 第3四半期決算報告
連結決算



(単位：億円)	FY2023 Q3累計実績	FY2024 Q3累計実績	前年同期比	%
売上高	1,569	1,535	▲33	▲2%
売上総利益	832	809	▲23	▲3%
売上総利益率	53.1%	52.7%	▲0.4pt	
販管費	767	801	+34	+4%
営業利益	65	8	▲57	▲88%
営業利益率	4.1%	0.5%	▲3.6pt	
経常利益	46	▲21	▲67	-
特別損益	▲33	▲4	+29	-
四半期純利益	4	▲29	▲32	-
為替換算レート (期中平均)	USD 142.76円	152.87円	+10.11円	
	EUR 155.19円	164.91円	+9.72円	

為替効果を除く
前年同期比
▲117億円 (▲7%)

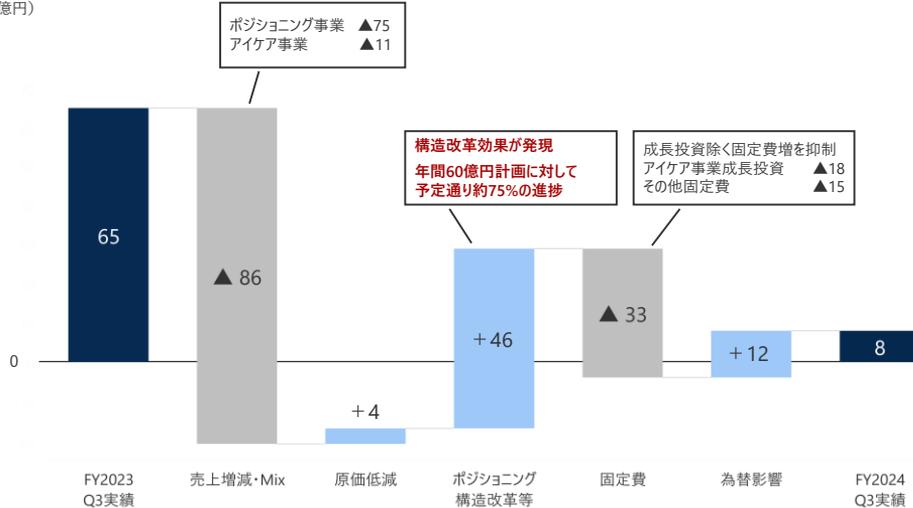
為替効果を除く
前年同期比
▲9億円 (▲1%)

連結決算

- ・売上高は1,535億円 (-2%減収)、円安による為替効果を除くと減収
- ・販管費は前年同期比で増加も、為替の影響を除くと抑制しマイナス
- ・営業外費用では有価証券評価損、為替差損、支払利息などがマイナスに影響
- ・為替は、ドル、ユーロともに10円程度の円安



(単位：億円)



©Topcon Corporation

TOPCON | 8

営業利益の増減益分析

- ・ 2023年度第3四半期累計実績65億円から、
売上増減・Mix効果：▲86億円（このうち、ポジショニング事業が▲75億円、アイケア事業が▲11億円）
原価低減効果：+4億円
ポジショニング事業の構造改革等の効果：46億円と、計画（年間60億円）に対し約75%と予定通りの進捗
固定費効果：▲33億円と抑制
為替影響：+12億円が円安による効果
- ・ 以上、トータルで2024年度第3四半期累計実績の営業利益は8億円

事業別の状況 | ポジショニング事業



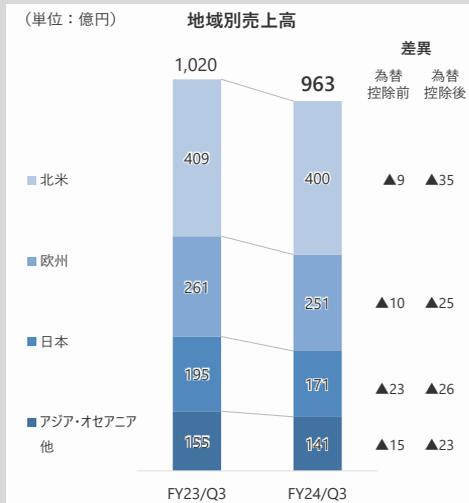
- 需要低迷継続で減収幅拡大、構造改革により固定費削減も減益

(単位：億円)	FY2023 Q3累計実績	FY2024 Q3累計実績	前年同期比	%
売上高	1,020	963	▲57	▲6%
営業利益	59	21	▲38	▲64%
営業利益率	5.8%	2.2%	▲3.6pt	
為替換算レート (期中平均)	USD 142.76円	152.87円	+10.11円	
	EUR 155.19円	164.91円	+9.72円	

為替効果を除く
前年同期比
売上高▲110億円 (▲11%)

ポジショニング事業の状況

- ・ 予想以上に需要低迷が継続し、売上高は963億円と前年同期比▲57億円の減収
- ・ 構造改革による固定費削減は計画通りに発現したが、売上高の落ち込みをカバーしきれず、営業利益は21億円と▲38億円の減益
- ・ 為替効果を除くと▲110億円の減収



北米

- ✓ ICT施工は、**市中在庫安定化**も、貿易政策等の先行き不透明感による投資抑制影響で、OEM中心に販売低迷が継続
- ✓ IT農業は、穀物価格下落による投資抑制の影響が継続

欧州

- ✓ IT農業は、穀物価格下落による投資抑制の影響が継続

日本

- ✓ 遅延していた測量機の新製品投入も売上貢献は第4四半期以降

アジア・オセアニア

- ✓ 中国の測量機が販売減少
- ✓ オセアニアでICT施工と測量機・レーザーが販売減少

ポジショニング事業の地域別の状況

- ・ 為替控除前・控除後ともに、全地域で減収

各地域の主な増減要因は、

- ・ 北米：ICT施工は、市中在庫が安定化するも、米新政権の貿易政策等に関する先行き不透明感から投資が抑制され、OEMビジネス中心に販売が減少。IT農業は、穀物価格下落による投資抑制の影響が継続し、販売が減少
- ・ 欧州：IT農業は、北米同様に、穀物価格下落により投資抑制の影響が継続し、販売が減少
- ・ 日本：遅延していた測量機を市場に投入するも売上貢献は第4四半期以降
- ・ アジア/オセアニア：中国で測量機の販売が減少、オセアニアでICT施工と測量機・レーザーの販売が減少

事業別の状況 | アイケア事業



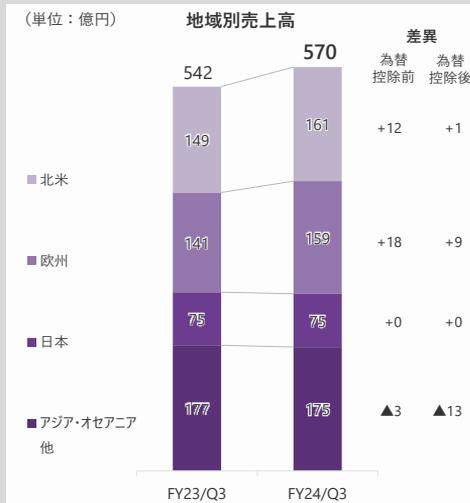
- 売上堅調も、成長投資にかかる費用増で一時的に減益

(単位：億円)	FY2023 Q3累計実績	FY2024 Q3累計実績	前年同期比	%
売上高	542	570	+28	+5%
営業利益	42	26	▲16	▲39%
営業利益率	7.7%	4.5%	▲3.2pt	
為替換算レート (期中平均)	USD 142.76円	152.87円	+10.11円	
	EUR 155.19円	164.91円	+9.72円	

為替効果を除く
前年同期比
売上高▲3億円 (▲0%)

アイケア事業の状況

- ・ 売上高570億円と前年同期比+28億円の増収。為替効果を除くと▲3億円減収だが一部期ズレが発生した影響
- ・ 成長投資にかかる費用が増加し、営業利益は26億円と▲16億円の減益



北米

- ✓ 一部期ズレが発生も、大手眼鏡チェーン店向け中心に販売堅調
- ✓ 直販体制構築の効果で、眼科医向けビジネスが拡大

欧州

- ✓ 地域差はあるも、大手眼鏡チェーン店向けや大型入札獲得などにより堅調な販売が継続

アジア・オセアニア

- ✓ 中国は、保険償還遅延・削減による病院経営悪化、腐敗防止による入札減少影響で販売大幅減
- ✓ 中国を除くインドなどアジア地域は、継続的な入札案件の獲得等により販売増

アイケア事業の地域別売上高の状況

各地域の主な増減要因は、

- ・北米：一部期ズレが発生するも、大手眼鏡チェーン店向けを中心に堅調な販売が継続。直販体制構築の効果で、眼科医向けビジネスが拡大
- ・欧州：地域差はあるも、大手眼鏡チェーン店向けや大型入札獲得などにより堅調な販売が継続
- ・アジア/オセアニア：中国は、引き続き保険償還遅延・削減による病院経営悪化、腐敗防止による入札減少影響で販売大幅減。中国を除くインドなどアジア地域は、継続的な入札案件の獲得等により販売増

FY24 通期見通し

02

- 連結見通し
- 事業別の見通し | ポジショニング事業
- 事業別の見通し | アイケア事業

02 | FY24 通期見通し 連結見通し



● 見通しの前提

ポジショニング事業

- ICT施工は、米新政権の政策不透明感から当社見通しとのギャップが生じ、買い控えの影響が拡大
- IT農業は、穀物価格の下落で投資抑制が長引く見通し

アイケア事業

- 期初想定から変更なし

構造改革

- 収益体質改善をさらに推し進めるため、ポジショニング事業を中心に追加の構造改革※を実施予定

※特別損失に計上予定

● 下方修正 | 新公表値

(単位：億円)		旧公表値 (10/30)	新公表値 (1/30)	旧公表値比	FY2023通期実績
売上高		2,200	2,110	▲90	2,165
営業利益		120	70	▲50	112
経常利益		80	35	▲45	89
純利益		45	0	▲45	49
ROE		4%	0%	-4pt	5%
配当		42円	42円	0円	42円
為替換算レート (期中平均)	USD	145.00円	145.00円		144.40円
	EUR	155.00円	155.00円		156.80円

Q3以降前提レート

Q4前提レート

©Topcon Corporation

14

連結見通し

見通しの前提

ポジショニング事業

- ICT施工は、米新政権の政策不透明感から当社見通しとのギャップが生じ、買い控えの影響が拡大
- IT農業は、穀物価格の下落で投資抑制が長引く見通し

アイケア事業

- 期初想定から変更なし

構造改革

- 収益体質改善をさらに推し進めるため、ポジショニング事業を中心に追加の構造改革を実施予定

下方修正後の新しい公表値

- 売上高 2,110億円 ▲90億円
- 営業利益 70億円 ▲50億円
- 経常利益 35億円 ▲45億円
- 当期純利益 ゼロ ▲45億円 追加の構造改革実施に伴い特損を計上予定
- 配当 42円 維持

連結見通し | 事業別売上高の状況

- ポジショニング事業の測量機・レーザー機器、アフターマーケットの見通しを変更

- 前年同期比 プラス
- 前年同期 並み
- 前年同期比 マイナス



赤枠 Q2時点見通しからの変更点

参考：Q2時点見通し

セグメント	ソリューション	主要なマーケット※2	FY2024		FY2024	
			上期	下期(見通し)	上期	下期
ポジショニング事業	測量機・レーザー機器	測量・建設				
			OEM			
	ICT施工※1	アフターマーケット				
			OEM			
IT農業※1	アフターマーケット					
		眼科・診断機器	医療機関/ 大手眼鏡チェーン店/ドラッグストア			
アイケア事業	スクリーニング・ その他サービス	医療機関/ 大手眼鏡チェーン店/ドラッグストア				

※1 ドル建てベースで比較

※2 OEM：建設機械メーカー、農業機械メーカーに販売
アフターマーケット：ICT施工・IT農業の後付け販売

事業別売上高の状況

主要なマーケット毎に、事業別売上高の前年同期との比較を矢印と枠内の色の濃さで表示

第2四半期時点見通しからの変更点を赤枠で表示

変更点は、

- ①測量機/レーザー機器
- ②ICT施工のアフターマーケット
- ③IT農業のアフターマーケット

事業別の見通し | アイケア事業



- 期初計画から変更なし
- 費用増を吸収し、売上高・営業利益ともに過去最高を見込む

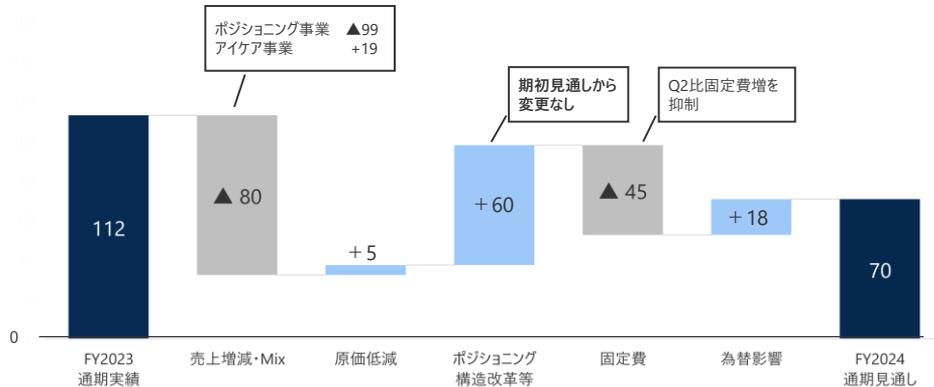
(単位：億円)	旧公表値 (10/30)	新公表値 (1/30)	旧公表値比	FY2023 通期実績
売上高	820	820	-	752
営業利益	75	75	-	67
営業利益率	9.1%	9.1%	-	8.9%
為替換算レート (期中平均)	USD 145.00円 EUR 155.00円	145.00円 155.00円		144.40円 156.80円
	Q3以降前提レート	Q4前提レート		

アイケア事業の見通し

- ・ 期初計画から変更なし
- ・ 成長投資にかかる費用増を吸収し、売上高・営業利益ともに過去最高を見込む



(単位：億円)



©Topcon Corporation

TOPCON | 18

連結見通しの営業利益の増減益分析

- ・ 2023年度実績 112億円から、
売上増減・Mix効果：ポジショニング事業の販売減が影響し▲80億円
原価低減効果：+5億円
ポジショニング事業の構造改革等の効果：期初見通しから変更なし。年間60億円の利益貢献を見込む
- ・ 固定費効果：第2四半期時点の見通し▲50億円に対し▲45億円と抑制
為替影響：+18億円。円安による効果が継続
- ・ 以上、トータルで2024年度見通し 70億円
- ・ 第2四半期時点との差異は、大半が売上見通しの下方修正による

各事業の進捗

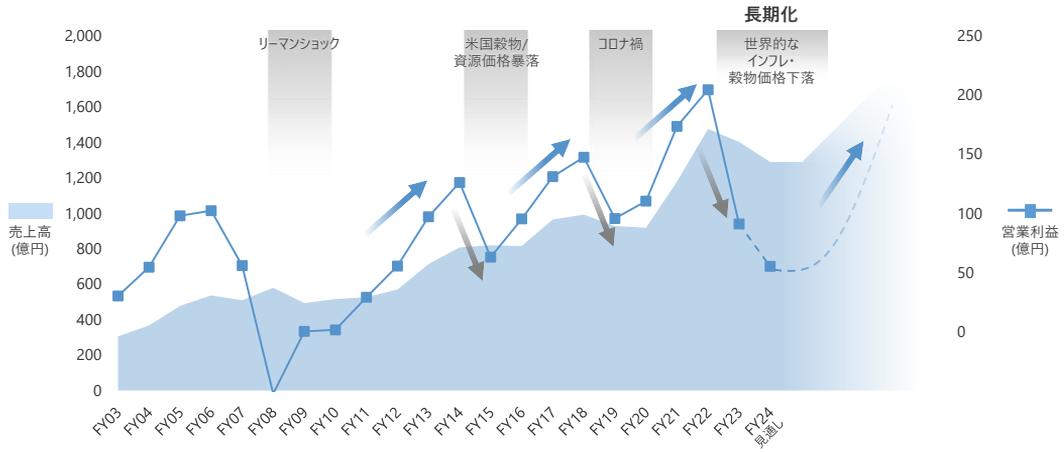
03

- ポジショニング事業 | シクリカルな事業特性
- ポジショニング事業 | 新製品リリース
- アイケア事業 | 成長フェーズの更なる加速へ
- アイケア事業 | スクリーニングからシエアードケアへの展開加速

ポジショニング事業 | シクリカルな事業特性



- 世界的なインフレ・穀物価格下落の影響が想定より長期化
- 景気循環の影響を受けつつも持続成長、構造改革で収益力向上と安定化を図る



©Topcon Corporation

TOPCON | 20

ポジショニング事業の進捗を、売上高を面グラフ、営業利益を折れ線グラフで記載

- ・ ポジショニング事業はシクリカルな事業特性をもつ
- ・ 足元では、世界的なインフレ・穀物価格下落の影響が想定より長期化
- ・ 景気循環の影響を受けつつも持続成長している。構造改革で収益力向上と安定化を図る



- 国内企画・開発マネジメント体制強化の効果が発現し、測量機新製品をリリース

測量からICT施工をカバーするトップセラー
レイアウトナビゲーター “杭ナビ”

電源システムの強化と測定可能範囲を拡大させた
『LN-160』を発売



- ・ バッテリー持続時間の向上
- ・ 測定可能範囲の拡大

2024年12月2日 (<https://www.topcon.co.jp/news/15022/>)

世界最速・最小・最軽量クラス
モータードライブトータルステーション

「Silky Drive® 技術」を搭載した『GT-1500/700シリーズ』を発売



- ・ より高効率かつコンパクト
- ・ 駆動時の安定性や静音性を追求
- ・ 従来機に比べ追尾性能2倍
- ・ 旋回スピード10%向上

2025年1月14日 (<https://www.topcon.co.jp/news/15155/>)

ポジショニング事業、新製品リリース

第2四半期説明会で示した通り、国内企画・開発マネジメント体制強化の効果が発現し、測量機の新製品をリリース

具体的には、

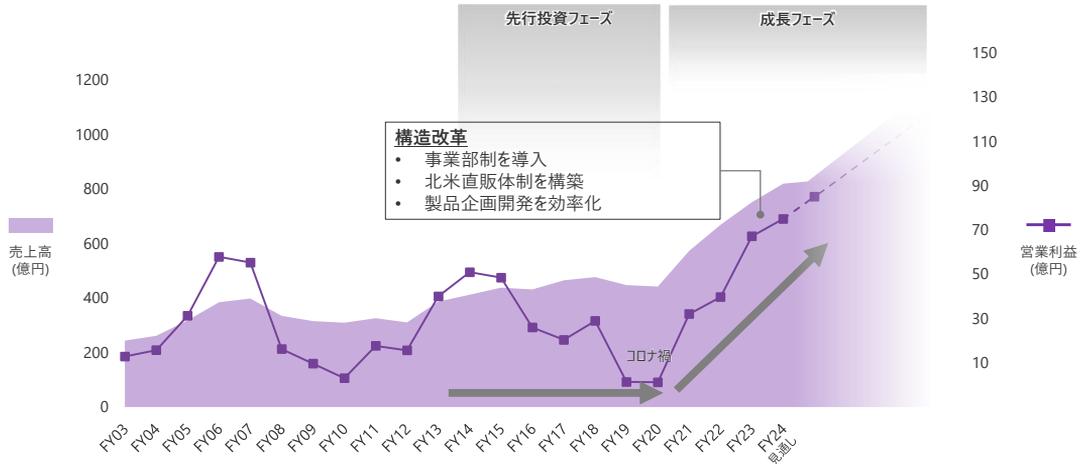
- ・ 測量からICT施工をカバーするトップセラー “レイアウトナビゲーター” 杭ナビ”の新機種LN-160を12月にリリース
- ・ 世界最速、最小、最軽量クラスのモータードライブ トータルステーション GT-1500/700シリーズを1月にリリース



03 | 各事業の進捗

アイケア事業 | 成長フェーズの更なる加速へ

- ソリューションビジネスの開花、スクリーニングからシェアードケアへ展開
- 構造改革により事業効率化、収益性改善



©Topcon Corporation

TOPCON | 22

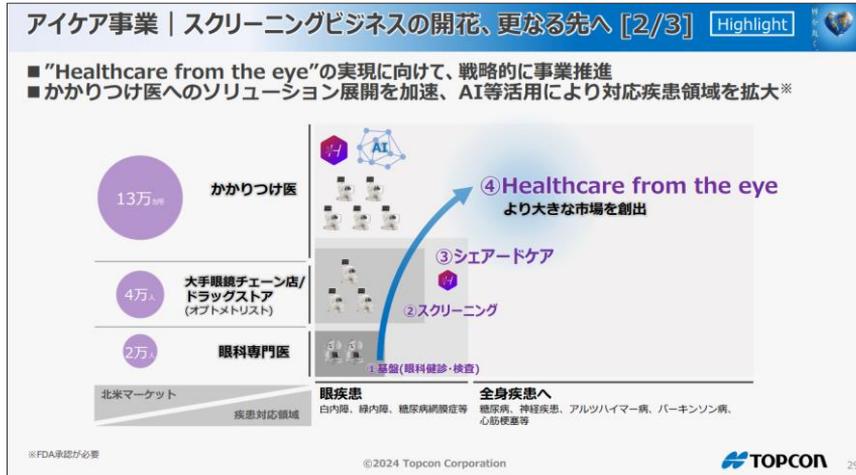
アイケア事業の進捗を、ポジショニング事業と同様に、売上高を面グラフ、営業利益を折れ線グラフで示す

- ・ アイケア事業は、ソリューションビジネスが開花、スクリーニングからシェアードケアへ展開。成長フェーズの更なる加速をはかる
- ・ 売上推移に対して営業利益の振れ幅が大きい点に課題感。構造改革により事業効率化、収益性改善

具体的には、事業部制の導入、北米直販体制の構築、製品企画開発の効率化等を推進



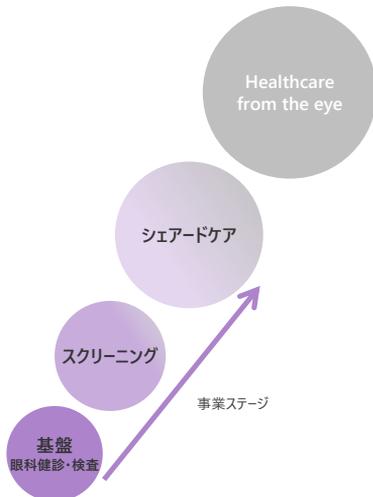
- “Healthcare from the Eye”の実現に向けて



“Healthcare from the Eye”の実現に向けて、2023年度本決算資料を再掲



- 欧米中心にスクリーニング機器・データプラットフォームが更に普及拡大



スクリーニング機器
Maestro・NW^{※1}の販売台数



(全地域の合計販売台数)

※1 ワンタッチ・フルオートの簡単操作の
OCT&眼底カメラMaestro、無散瞳眼底カメラNW

データプラットフォーム
ITソリューション^{※2}の売上



(北米における合計売上)

※2 Harmony/RDxを含む全ITソリューション

アイケア事業は、スクリーニングからシェアードケアの展開が加速

- ①左側の図：（前のページを簡易的に示したもの）“Healthcare from the Eye”の実現をターゲットに、事業ステージはスクリーニングビジネスからシェアードケアに展開加速
- ②中央のグラフ：スクリーニング機器の販売が欧米中心に拡大
- ③右側のグラフ：データプラットフォームが更に普及拡大

世界を丸く。



尖ったDXで、

参考資料

04

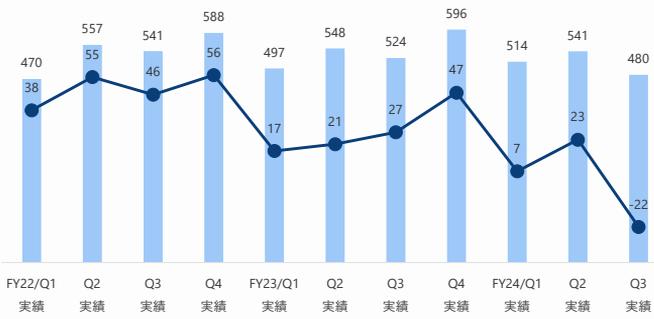
- 業績推移
- 地域別売上高
- 設備投資・減価償却費・研究開発費 / 為替感应度



四半期

(単位：億円)

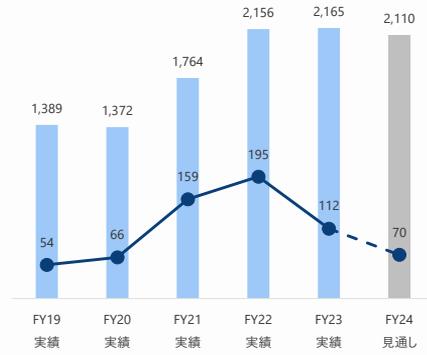
売上高 営業利益



通期

(単位：億円)

売上高 営業利益

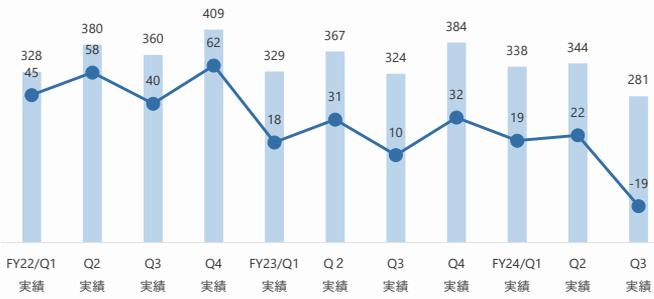




四半期

(単位：億円)

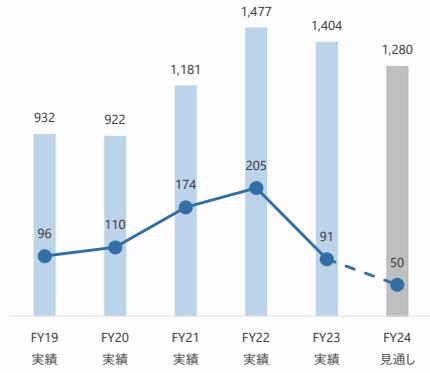
売上高 ● 営業利益



通期

(単位：億円)

売上高 ● 営業利益

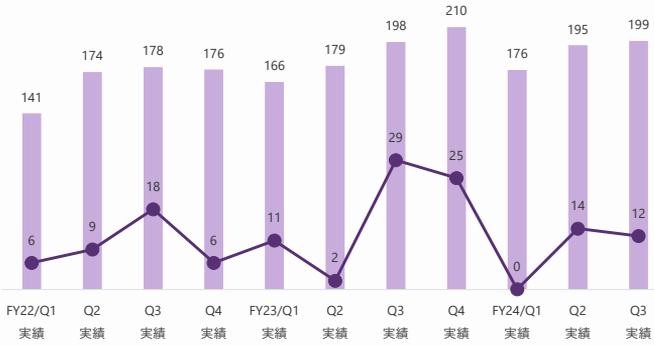




四半期

(単位：億円)

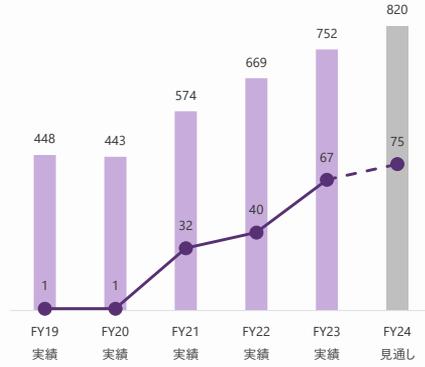
売上高 営業利益



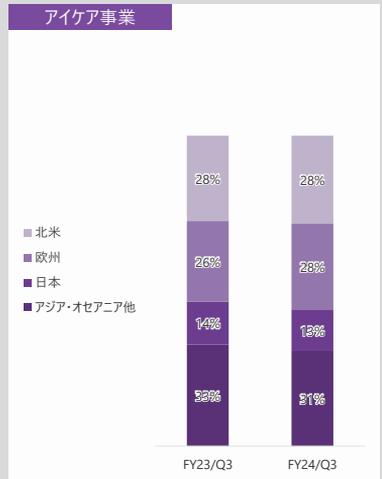
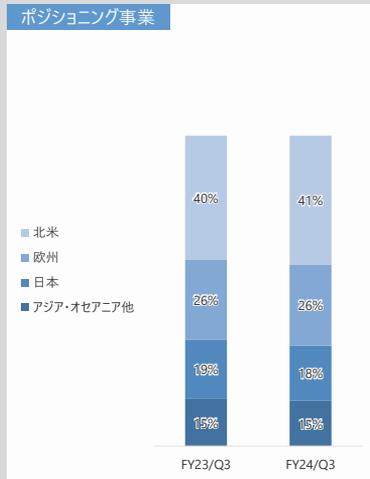
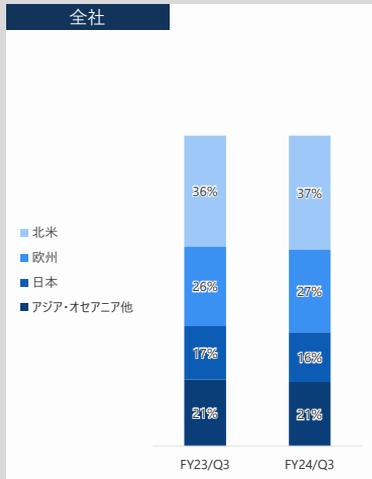
通期

(単位：億円)

売上高 営業利益



地域別売上高

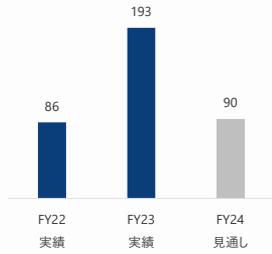


設備投資・減価償却費・研究開発費 / 為替感応度



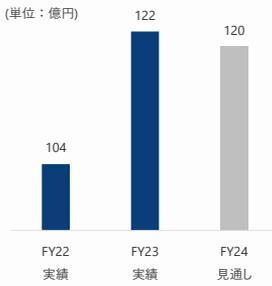
設備投資

(単位：億円)



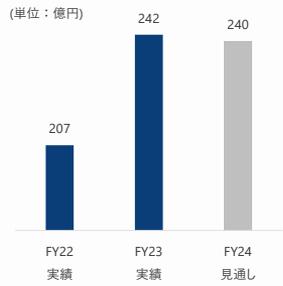
減価償却費

(単位：億円)



研究開発費

(単位：億円)



為替感応度

(1円の変動による影響額)

	営業利益
USD	1.5~2億円
EUR	0.7~1億円

免責事項

本資料に記載の業績見通し、並びに将来予測は、現在入手可能な情報に基づき、見通しのもとになる前提、予想を含んだ内容を記載しております。実際の業績は、今後の事業領域を取りまく経済状況、市場の動向により、本資料の業績見通しとは異なる場合がございますので、ご承知おき頂きたくお願い致します。

お問合せ先	株式会社トプコン 経営推進本部 広報・IR部
TEL	: 03-3558-2532
E-mail	: investor_info@topcon.co.jp
URL	: https://www.topcon.co.jp

